

平成23年度 学校自己評価システムシート (県立 和光 高等学校)

目指す学校像	進取の気風に富み、社会人としての基礎的な素養を身につけた生徒を育成する。
--------	--------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識や社会性を身につけさせるとともに、思いやりの心を育てる。 2 授業改善を進め、生徒の学習習慣と基礎学力の定着を図る。 3 体験活動や進路行事をとおして、進路意識を高め、進路希望の実現を図る。 4 部活動や学校行事を充実し、ボランティア活動を推奨し、活力ある開かれた学校をつくる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (月 日 現 在)			学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)			実 施 日 平 成 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立が不十分で、遅刻や成績不振を経て、問題行動や中途退学に至る生徒がいる。また、中途退学者は年々減少傾向にあるが、依然として多い。意欲的に学校生活に取り組むための目的意識の醸成が課題である。 昨年度、遅刻欠席数の削減目標は達成することができたが、遅刻する回数が著しく多い生徒が一部に見られ、全体としての遅刻数は依然として多い。 昨年度は1学年の2学期に問題行動による生徒指導が集中した。早期の生活習慣の確立と規範意識の醸成が課題である。 頭髪服装指導対象者の割合は減少しており、挨拶をする生徒は増えてきている。身だしなみや挨拶の指導の成果は、地域から認知されつつあるが、制服の着こなしが良くない生徒もいる。さらに教員間の共通理解による指導体制を強化する。 他者を思いやる心やコミュニケーション能力が育っていない生徒がいる。人間関係のトラブル等をきっかけに、不登校や退学にいたる生徒がいる。 スクールカウンセラーとの教育相談会を定期的に開き、心の問題を抱えている生徒の指導は効果を上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活習慣を確立させる者数を減少させる。 生徒の規律ある態度を育成し、遅刻数、生徒指導件数を減少させる。 不登校になる生徒を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の立哨指導や学年集会等を通じて生徒の規範意識啓発や社会性の涵養に取り組む。また、家庭との連携を強化し全教員の共通理解のもと生徒の指導にあたる。 生徒が学校を基盤においた生活習慣を確立させるために授業を充実させるとともに社会体験活動や進路行事、部活動等を通じて生徒の学校生活への目的意識を高揚させる。 従来の遅刻指導を継承するとともに、本年度から更に新しい遅刻指導の方法を導入し生徒の遅刻防止に取り組む。また集会等の機会を活用し生徒の遅刻に対する意識変革を促す。 校内巡回、校外指導を徹底するとともに担任と家庭との連携体制を強化し問題行動の未然防止に取り組む。服装についても共通理解のもと全職員での指導を徹底する。 「在り方生き方教育」を活用し、生徒の思いやりの心の育成や道徳心の啓発を推進する。 教育相談委員会が中心となり学年・担任と養護教諭・カウンセラーとの連携を密にして生徒の状況把握に努め不登校の防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 中途退学者の減少(前年比20%減) 高校生にふさわしい身だしなみや言葉遣い 遅刻欠席数の削減(前年比20%減) 生徒指導件数の削減(前年比10%減) 不登校の生徒数の減少 					
2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートでは授業の理解度・満足度は向上し、1年次の少人数学級編成、2年次の数学・英語の習熟度別少人数授業等の効果は現れている。一方、授業に対する意識の低い生徒や成績不振者数も多く、生徒の基礎学力向上に向けた一層の取組が必要である。 授業規律は改善傾向にあり、多くの生徒が真摯に授業に取り組んでいる。しかし一部の生徒は積極的な学習姿勢に欠け、また、殆どの生徒は家庭学習の習慣が確立されていない。生徒に自発的な学習に取り組ませる方策が必要である。 教員間の公開授業、授業研究等授業改善を推し進めている。しかし、校内授業研究週間での授業参観票の利用は不十分であり、また、学力差のある生徒に対し、実態に応じた授業を実践するための取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習習慣を確立し、高校生としての基礎学力を定着させる。 授業研究を推進し、授業の質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度から実施する学校設定科目「ベーシック」を効果的に活用し、学習に対する躰きの解消を促進し授業の理解度を高める。 全職員の共通理解のもとチャイム着席・授業環境の整備等を一層徹底し授業規律を確保する。 教科会の充実を通じて、授業・評価の研究を進め生徒の学習習慣を確立する取組を検討実施する。 補習や課題等の強化により、成績不振者に対して学習活動を支援し成績不振を解消させるとともに、上位層を伸張させる取組を実施する。 生徒の授業評価アンケートのフィードバック、校内授業研究週間の充実活用や、初任者研修、年次研修の研究授業を通じて、教員相互による授業研究を一層推進し生徒の基礎学力の向上を実現する授業の実施に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートでの授業の理解度、満足度の向上 成績不良者の減少(前年比10%減) 成績優良者の増加(前年比10%増) 成績不振による転退学者の減少 					
3	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の悪い中、進路決定率は大幅に向上したが、進路意識が低く、進路活動に取り組まない生徒もいる。キャリア教育を通じて進路意識の啓蒙が課題である。 1学年全員に5日間の社会体験活動を実施し、昨年度は全日程参加者が大幅に増加した。この行事を通じて一層の社会性の醸成や規範意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対応し生徒の進路実現を図る。 進路行事を通じて生徒の進路意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年・担任、進路指導部の連携を強化し綿密な進路指導計画を実施する。 就職企業の開拓を進めるとともに就職支援アドバイザーや就職相談会等を活用することにより進路決定率を上げる。 進路行事やLHRを通じて進路ガイダンスを実施し、生徒の進路意識の啓蒙を図る。 就労体験事業を通じて人格形成と進路意識の向上を図るとともに学校生活の目的意識を啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路未決定者の減少(前年比10%減) 社会体験活動の全日程参加率の向上 					
4	<ul style="list-style-type: none"> 殆どの生徒が学校行事に真摯に取り組む姿勢がある。また交流会、ボランティア活動など生徒会の活動も学校の活性化に貢献している。活動の裾野を広げることが課題である。 生徒に部活動への参加を呼びかけているが実質活動率は低い。しかし部活動単位で市や地域の行事に積極的に参加している。 保護者の学校行事等の参加数も増加し、PTA活動への参加意識は高まりつつある。しかしまだその範囲は限られていて、一部の方の負担が増大している一面もある。 昨年度、保護者アンケートの回収率が向上した。一層の工夫により保護者や地域の意見を学校運営に取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動、学校行事、校外活動に積極的に参加する生徒を育成する。 保護者全体の協力体制を強化しPTA・後援会活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の部活動の活性化や部活動加入調査の実施等を通じて生徒の部活動への参加を促進する。また、部活動や課外活動で活躍する生徒の募集に努めることにより部活動を奨励する気運を高める。 近隣の施設を活用し生徒の幅広い人間性を育成するとともに、生徒会や部活動を核にして、ボランティア活動等の校外活動に生徒教員が参加し、学校全体として地域活動に参画貢献する。 学校と保護者・地域が協力して40周年記念事業を実施し、一層の協力体制を整備する。 HPやメール、学校からの通信等を通じ広報活動を充実するとともにPTA行事について早めの周知に努め、保護者の参加増加を図る。 保護者アンケートの回収率を一層高め、また中学校との連携を強化し、それらの意見を学校運営に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率の増加(前年比10%増) 市行事やボランティア活動等の校外行事への参加 PTA活動の保護者参加率の向上 					